

# 総合型地域スポーツクラブの運営評価に影響を及ぼす スポーツ・ソーシャル・キャピタル因子に関する研究

—スポーツ・ソーシャル・キャピタル評価尺度の開発—

稲葉慎太郎\*  
山口泰雄\*\* 伊藤克広\*\*\*

抄録

本研究の目的は、総合型地域スポーツクラブのクラブ運営に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタル因子を明らかにすることである。具体的には、総合型地域スポーツクラブの運営を担うクラブマネジャーを対象とし、クラブ運営評価に対するスポーツ・ソーシャル・キャピタルの影響を、NPO 法人格クラブと任意団体クラブの比較によって検証することである。その際、総合型地域スポーツクラブのクラブ運営評価尺度と、地域スポーツの文脈に即したスポーツ・ソーシャル・キャピタルの測定尺度の開発を行った。調査対象は、各都道府県の広域スポーツセンターが把握する総合型地域スポーツクラブから抽出した 816 クラブであり、郵送法による質問紙調査を行なった（有効回答数 438 票）。クラブ運営評価（36 項目）とスポーツ・ソーシャル・キャピタル（認知的：14 項目；構造的 19 項目）に関しては、探索的因子分析を用いて因子構造の検証を行ない、得られた因子をもとに NPO 法人格クラブと任意団体クラブで仮説モデルの検証を行なった。結果として、クラブ運営評価に関しては 6 因子、スポーツ・ソーシャル・キャピタルに関しては合計 4 因子が抽出された。NPO 法人格クラブの仮説モデルの検証からは、地域貢献への規範意識が高まるとクラブマネジャーの内発的動機づけが高まることが明らかとなった。さらに、クラブマネジャーの内発的動機づけが高まると、クラブ運営評価が高まることが示された。また、任意団体クラブの仮説モデルの検証からは、地域における信頼関係の構築、地域貢献への規範意識、スポーツ関係者とのネットワークの構築が進むことによって、クラブマネジャーの内発的動機づけが高まることが明らかとなった。そして、地域における信頼関係の構築、地域貢献への規範意識、スポーツ関係者とのネットワークの構築、クラブマネジャーの内発的動機づけが高まると、クラブ運営評価が高まることが示された。

キーワード：ソーシャル・キャピタル，総合型地域スポーツクラブ，  
クラブ運営評価，尺度開発，NPO 法人格

\* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士後期課程 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11

\*\* 神戸大学大学院 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11

\*\*\* 兵庫県立大学 〒651-2197 兵庫県神戸市西区学園西町 8-2-1

# A study on the influence of sport social capital on the evaluation of the administration in community sport club

—The development of scales for sport social capital—

Shintaro Inaba \*  
Yasuo Yamaguchi \*\*      Katsuhiko Ito \*\*\*

## Abstract

The purpose of this study was to examine the influence of sport social capital on the evaluation of the administration in community sport clubs. Specially, this study compared the influence that sport social capital had on the evaluation of the administration in two types of community sport clubs that is, incorporated nonprofit organization (NPO) clubs and voluntary clubs. The scales of the evaluation of club administration and sport social capital were developed. In this study, the sample was the club managers of eight hundred and sixteen community sport clubs, and the questionnaire survey was conducted for these club managers by mail. Of the four hundred and thirty-nine questionnaires that were returned, and four hundred and thirty-eight samples were analyzed in this study. The results indicated that 1) six factors in the scales of the evaluation of club administration and four factors in the scales of sport social capital were identified by exploratory factor analysis; 2) in the case of NPO clubs, the norm of local contribution enhanced the intrinsic motivation of club managers, and the intrinsic motivation had significant effect on the evaluation of club administration; and 3) in the case of voluntary clubs, social trust in community, norm of local contribution, and the networks of community sport enhanced the intrinsic motivation of club managers, and social trust in community, norm of local contribution, and the intrinsic motivation had significant effect on the evaluation of club administration.

Key Words: social capital, community sport club, evaluation of club administration, development scales, incorporated non-profit organization

---

\* Graduate School, Kobe University 3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe 657-8501 JAPAN

\*\* Kobe University 3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe 657-8501 JAPAN

\*\*\* University of Hyogo 8-2-1 Gakuennishimachi, Nishi-ku, Kobe 651-2197 JAPAN

## 1. はじめに

文部科学省 (2013) は、2013年7月現在で全国1,377の市区町村において3,493の総合型地域スポーツクラブ (以下、総合型クラブ) が育成されていることを報告している。そのうち、543クラブ (15.5%) が法人格を取得し、152クラブ (4.3%) が指定管理者として公共施設等の管理事業を受託している。総合型クラブの法人格取得に関しては、「組織の継続性、透明性を高め、地域のスポーツ振興という公益活動に一層貢献するために、特定非営利活動法人等の法人格を取得することについて助言を行うこと」(文部科学省, 2000) という役割が都道府県、および市区町村に対して求められている。総合型クラブの法人格取得に関する研究は、内藤 (2003), 行實・清水 (2003), 菊池・権田 (2005), 内藤 (2006) などによって進められており、財務・人事を中心としたクラブの基盤を強化する上では有効であることを示している。一方で、地域住民に対してサービスのみを提供する存在となり、スポーツ振興基本計画 (文部科学省, 2000) 等によって謳われてきた理念である、地域住民の主体的な運営体制が損なわれる可能性が指摘されている。また藤田 (2012) は、総合型クラブの法人格化によって社会的な信頼を得られ、行政や他団体との協力関係を構築し、活動に活かすことが可能となることを主張している。

総合型クラブを含めた様々な市民活動の促進を図るうえで、市民の「信頼・規範・ネットワーク」に着目し、代理変数を用いて「ソーシャル・キャピタル」として変数化したPutnam (1993) の研究に注目が集まり、政治学に端を発して社会学、経営学、公衆衛生学等の多岐にわたる分野において援用が進んでいる。しかし、それぞれの分野における多様な課題に対して、十分な検証がなされないまま有効な理論であると捉えているという指摘がなされている (埴淵ら, 2007; 坂本 2007)。一方で森岡 (2011) は、ソーシャル・キャピタルを定量的に測定する際には、対象とする事象に応じて調査項目を検討する必要があるという主張もあり、その測定尺度については議論が続いている。

スポーツ分野においてもソーシャル・キャピタルを用いた研究は、Harvey et al. (2007), Perks (2007), 長積ら (2009), Okayasu et al. (2010), 舟木・野川 (2012) など、研究知見の蓄積が進んでいる。いずれの研究においても地域スポーツを対象としており、地域スポーツへの参加がソーシャル・キャピタルの生成につながることを明らかにしている。これらの研究はソーシャル・キャピタルを従属変数として設定しているが、Putnam (1993) によるソーシャル・キャピタルの定義は、「調整され

た諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織における特徴」となっており、この定義に則るならば、

ソーシャル・キャピタルを独立変数をとして捉え、市民活動をはじめとした社会的活動の効率性を高める、つまり、活動を促進することを検証することが必要と言える。稲葉・山口 (2009) は、兵庫県内の総合型クラブにおける代表者が蓄積するソーシャル・キャピタルが、クラブの活動に影響を及ぼしていることを示している。本研究においては、ソーシャル・キャピタルが職場における内発的動機づけに及ぼす影響について検証した石塚 (2013) を参考にし、MSQ (Minnesota Satisfaction Questionnaire) から内発的動機づけの調査項目を援用した堀江ら (2007) を援用して、ソーシャル・キャピタルが内発的動機づけを媒介変数として、クラブ運営評価に及ぼす影響を検証することとした。

## 2. 目的

本研究の目的は、総合型クラブのクラブ運営に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタル因子を明らかにすることである。具体的には、総合型クラブの運営の中核を担うクラブマネージャーを対象とし、クラブ運営評価に対して、クラブ運営を通じて生成されるスポーツ・ソーシャル・キャピタルの影響を法人格の有無によって検証することである。

## 3. 方法

本研究において対象としたクラブは、回収数の向上を図るため、各都道府県の広域スポーツセンターが把握する総合型クラブのリストより、クラブの所在地・窓口が明確になっているクラブとした。その上で、各都道府県内での都市部・農山村部といった地理的特徴を考慮し、NPO 法人格を有するクラブと任意団体として活動しているクラブを抽出し、合計 816 (NPO 法人格クラブ: 339; 任意団体クラブ 477) となった。

調査項目は、クラブ運営評価 (36項目)、スポーツ・ソーシャル・キャピタル (認知的ソーシャル・キャピタル [信頼関係など、社会において認識できる項目]: 14項目、構造的ソーシャル・キャピタル [付き合いの頻度からみたネットワークを測定する項目]: 19項目)、内発的動機づけ (5項目)、クラブの法人格の有無、個人的属性を用いた。クラブ運営評価に関しては、探索的因子分析の結果で得られた因子に該当する項目の合成変数としてクラブ

運営総合評価を算出した。クラブ運営評価に関しては水上 (2002) と山口ら (2007), スポーツ・ソーシャル・キャピタルに関しては, 稲葉・山口 (2009) と Okayasu et al. (2010), 稲葉ら (2013), 内発的動機づけに関しては, 堀江ら (2007) をもとに項目を設定した。特に, クラブ運営評価とスポーツ・ソーシャル・キャピタルに関しては, 兵庫県内の市町において, 地域スポーツ振興に関する十分な知識と経験を有し, 日常的に総合型クラブの育成支援を行っているスポーツ振興担当者4名にインタビュー (各 30~60 分程度) を行い, 調査項目の内容を踏まえて項目の追加や表記の変更についての意見を得て, 項目を整理した。その後, 研究代表者, 共同研究者, 及び研究代表者が所属する大学院の大学院生 (4 名) のトライアングレーションによる検討

を経て, 質問紙で用いる調査項目として定めた。本研究の仮説モデルは, 先行研究 (石塚, 2013; 稲葉・山口, 2009) を参考に以下 5 つの仮説を導き, 図 1 の仮説モデルを設定した。

- 仮説 1: 認知的ソーシャル・キャピタルは, 内発的動機づけに影響を及ぼす
- 仮説 2: 構造的ソーシャル・キャピタルは, 内発的動機づけに影響を及ぼす
- 仮説 3: 内発的動機づけは, クラブ運営評価に影響を及ぼす
- 仮説 4: 認知的ソーシャル・キャピタルは, クラブ運営評価に影響を及ぼす
- 仮説 5: 構造的ソーシャル・キャピタルは, クラブ運営評価に影響を及ぼす

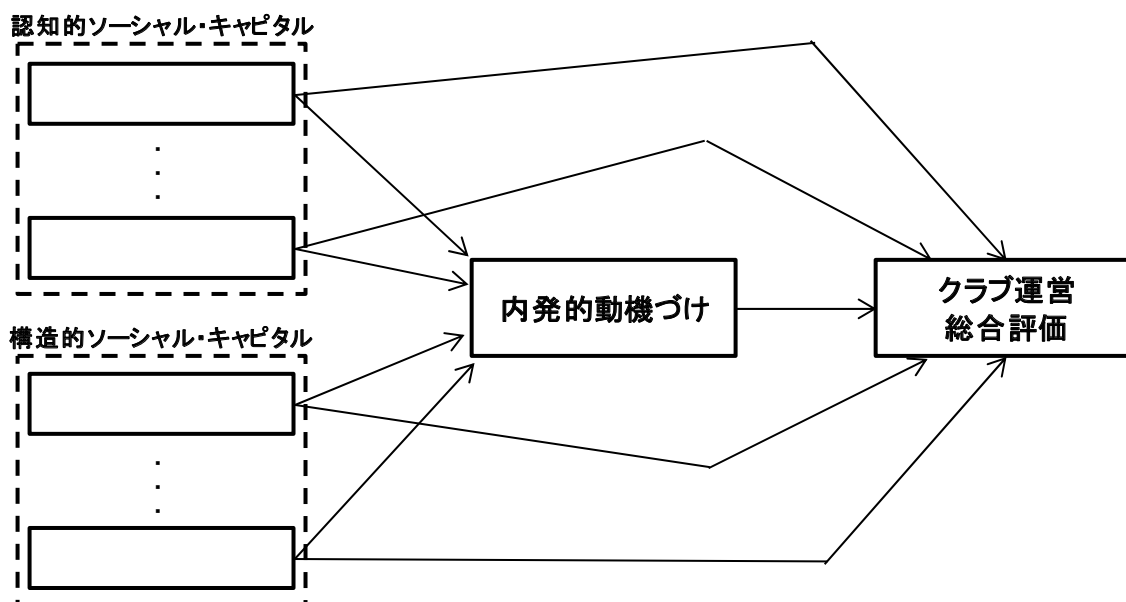


図 1. クラブ運営評価に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタル因子に関する仮説モデル

調査方法は, 郵送法による質問紙調査を採用し, 調査協力の文面と調査票の表紙には, 「クラブの運営にたずさわる代表者の方 (クラブマネージャー, 事務局長等) がご記入ください」と表記し, 対象とするクラブの運営状況を総括的に把握している責任者からの回答が得られるように留意した。2014 年 1 月 28 日に発送を行い, 2 月 10 日を返送締切日とした上で, 返送されなかったクラブに対して催促状を送付し回収率の向上に努めた。回収数は 439 票 (回収率 53.8%) であり, 有効回答数は 438 票であった。なお, 13 票が宛先不明で返送されており, 文部科学省 (2013) において報告されている「解散等クラブ」の 59 クラブに該当するものも含まれていると

考えられる。

分析方法は, クラブ運営評価とスポーツ・ソーシャル・キャピタルの因子抽出には探索的因子分析を用いた。抽出された因子については, 該当する項目の合成変数とし, NPO 法人格クラブと任意クラブの 2 群間において t 検定を行なった。また, 仮説モデルの検証の際にはパス解析を行なった。なお, 統計的なデータ処理には, SPSS ver.18.0 を使用した。

#### 4. 結果及び考察

##### 4-1. クラブ運営評価, およびスポーツ・ソーシャル・キャピタルの因子抽出

先行研究をもとに設定したクラブ運営評価（36項目）とスポーツ・ソーシャル・キャピタル（認知的：14項目；構造的19項目）について、探索的因子分析（主因子法，プロマックス斜交回転）を行ない，Nunnally and Burnstein（1994）を元に因子負荷量が.400以上となる項目を採用した。その結果，クラブ運営評価については6項目が除外され，6因子が抽出された。これら6因子について先行研究を参考にし，「外部との関係構築（例：クラブの活動について，各種地域団体と連携を図っている）： $\alpha=.818$ 」，「多様な活動内容（例：体力に応じた活動に参加することができる）： $\alpha=.751$ 」，「指導体制（例：クラブにおいて一貫した指導体制で活動している）： $\alpha=.801$ 」，「運営体制（例：クラブを自主的に運営する体制をとっている）： $\alpha=.760$ 」，「クラブハウス（例：クラブ運営の拠点となるクラブハウスが確保されている）： $\alpha=.861$ 」，「未成年の参加（例：中学生・高校生の会員が活動している） $\alpha=.484$ 」と名付けた（表1）。

スポーツ・ソーシャル・キャピタルの認知的ソーシャル・キャピタル14項目については，1項目が除外されて2因子が，構造的ソーシャル・キャピタル19項目については，2項目が除外されて2因子が抽出された。これら4因子について先行研究を参考にし，「社会的信頼（例：地域の人々は信頼できる）： $\alpha=.747$ 」，「互酬性の規範（例：地域での活動に関する話し合いによく参加している）： $\alpha=.829$ 」，「地域ネットワーク（例：女性団体〔婦人会等〕関係者）： $\alpha=.867$ 」，「スポーツ・ネットワーク（例：市町村競技団体関係者）： $\alpha=.807$ 」と名付けた（表2，表3）。

表1. クラブ運営評価に関する探索因子分析の結果

		成分					
		1	2	3	4	5	6
外部との関係構築	28. クラブの活動について，各種地域団体との連携を図っている	.776					
	26. クラブの活動にあり，各種スポーツ団体との連携を図っている	.733					
	27. クラブの活動にあり，各種学校との連携を図っている	.681					
	25. クラブの活動にあり，他クラブとの連携を図っている	.612					
	7. 非会員の地域住民を対象とした活動を行っている	.608					
	24. 外部の助成金の申請を積極的に行なっている	.539					
	20. 様々な地域住民がクラブ運営に参画するように促している	.497					
	23. 地元の営利団体（企業・商店等）から支援を得ている	.484					
	30. クラブが所在する地域のスポーツ活動の調整を行っている	.490					
	32. クラブの活動について地域住民に広報している	.427					
	多様な活動内容	1. 体力に応じた活動に参加することができる	.795				
		2. 複数の活動内容への参加が可能な体制となっている	.730				
3. 健康づくりを目的とした活動が用意されている		.726					
4. 幅広い活動内容が選択できている		.650					
指導体制	11. 高齢者の会員が活動している	.595					
	10. 成人の会員が活動している	.404					
	34. クラブにおいて一貫した指導体制で活動している		.796				
	35. クラブにおいて指導者の質を向上させる取り組みがなされている		.770				
運営体制	33. クラブの活動において，必要な指導者が確保されている		.721				
	36. 活動の質の安全管理体制が整っている		.703				
	16. クラブを自主的に運営する体制をとっている		.785				
	17. クラブの運営体制は組織化されている		.670				
	19. クラブの運営に専門的にたずさわっている人がいる		.617				
	18. クラブの運営に必要なスタッフは確保されている		.570				
クラブハウスの活用	22. クラブにおいて，収益を得るための事業を行っている		.506				
	21. クラブを運営する上で，十分な資金を確保している		.464				
	13. クラブ運営の拠点となるクラブハウスが確保されている				.913		
未成年の参加	14. クラブハウスは会員が自由に使用できている				.885		
	9. 中学生・高校生の会員が活動している					.717	
	8. 小学生以下の会員が活動している					.555	
累積寄与率(%)		25.073	32.226	38.944	44.535	49.294	53.724

表2. 認知的ソーシャル・キャピタルに関する探索的因子分析の結果

	成分			
	1	2		
互酬性の規範	11. 地域での活動に関する話し合いによく参加している	.813		
	10. 地域での活動によく参加している	.808		
	13. 地域で問題が起きたときに，解決のために協力する	.692		
	6. 近所の人から地域に関する相談を受けることがある	.677		
	8. 地域で行なっている活動に関心がある	.668		
	12. 地域での活動のために，物質的（金銭・現物等）支援をする	.656		
	9. 地域のために役に立つことをしたい	.592		
	社会的信頼	1. 地域の人々は信頼できる		.882
		2. 地域の人々は，大半が正直な人だと思う		.859
3. 地域の人々は，お互いに良い関係を築いている			.818	
4. 地域で生活していると，不安に感じることがある			.495	
5. あなたが困っているとき，地域の人々は助けてくれる			.444	
7. 地域における行政の取り組みは上手いっている			.434	
累積寄与率(%)		35.836	49.865	

表3. 構造的ソーシャル・キャピタルに関する探索的因子分析の結果

	成分			
	1	2		
地域ネットワーク	6. 女性団体（婦人会等）関係者	.865		
	4. 自治会関係者	.811		
	5. 高齢者団体（老人会等）関係者	.800		
	7. 子ども団体（子ども会等）関係者	.772		
	8. PTA関係者	.722		
	1. 近隣の住民	.629		
	10. 文化活動団体関係者	.567		
	9. 地域の商工業者組織（商工会・商工会議所）関係者	.524		
	スポーツ・ネットワーク	15. 市町村競技団体関係者		.790
		13. 行政のスポーツ担当職員		.783
19. 公共スポーツ施設職員			.715	
14. スポーツ推進委員（旧，体育指導委員）			.619	
12. 他の地域スポーツクラブ関係者			.588	
16. スポーツ少年団関係者			.504	
17. レクリエーション活動団体関係者			.454	
18. 各種学校関係者			.442	
11. あなたが所属する地域スポーツクラブの会員			.433	
累積寄与率(%)		34.818	46.959	

#### 4-2. 法人格の有無によるクラブ運営評価，スポーツ・ソーシャル・キャピタル，および内発的動機づけの比較

4-1において抽出した因子と内発的動機づけ（5項目）について，該当する項目で合成変数を作成し，法人格の有無で平均値の比較を行った（表4）。クラブ運営評価に関する6変数とそれらの合成変数である「クラブ運営総合評価」に関しては，いずれもNPO法人格クラブの方が統計的に有意に高い値を示した。山口（2006）が述べているように，クラブが法人格を有していることにより，社会的信頼や組織の公益性が証明され，行政からの委託事業や他団体との継続的な連携を通じて，安定した運営基盤を築くことが可能となる。組織の基盤が安定することから，多様な事業を実施することが可能となり，運営体制や指導体制の充実を図ることに繋がっている結果といえる。

スポーツ・ソーシャル・キャピタルに関しては，

地域ネットワークについて任意団体クラブの方が統計的に有意に高い値を示した。法人格を有していないため、クラブの規模や活動範囲が比較的小さいことが考えられ、地域とクラブマネジャーが親密な関係性を築いていることが推察される。内発的動機づけに関しては、NPO 法人クラブの方が統計的に有意に高い値を示した。クラブの組織基盤が整っていることから、クラブマネジャーをはじめとした常勤スタッフを雇用しており、クラブ運営に専念できる環境が整い、運営業務に対してより意欲的である姿勢がうかがえる。

表 4. NPO 法人格クラブと任意団体クラブの 2 群間における各因子の平均値の比較

	項目数	NPO法人クラブ			任意団体クラブ				
		n	mean	S.D.	n	mean	S.D.		
クラブ運営評価	外部との関係構築	10	205	27.45	5.20	213	24.68	5.06	***
	多様な活動内容	6	207	20.73	2.69	218	20.01	2.80	*
	指導体制	4	210	11.96	2.27	224	10.87	2.15	***
	運営体制	6	207	18.73	2.90	221	16.00	3.22	***
	クラブハウス	2	203	4.86	2.24	214	3.84	2.03	***
	未成年の参加	2	209	6.18	1.43	224	5.40	1.55	***
	クラブ運営総合評価	30	195	89.88	11.01	199	80.82	11.41	***
スポーツ・ソーシャル・キャピタル	認知的	6	206	18.31	2.38	219	18.17	2.24	n.s.
	社会的信頼	7	206	20.57	3.43	221	20.20	3.52	n.s.
	報酬性の規範	8	201	17.09	4.76	216	18.08	4.88	*
	構造的	9	204	23.43	4.82	218	23.20	5.13	n.s.
	内発的動機づけ	5	209	19.80	3.03	219	18.82	3.05	**

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

#### 4-3. クラブ運営評価に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタル因子に関する仮説モデルの検証

本研究において設定した仮説に基づいて、NPO 法人格クラブと任意団体クラブのそれぞれにおいて仮説モデルの検証を行なった。図 2 は、NPO 法人格クラブにおいて仮説モデルを検証した結果である。スポーツ・ソーシャル・キャピタル 4 変数のうち、内発的動機づけに有意に影響を及ぼしていたのは報酬性の規範 ( $\beta=.179$ ) のみであった。したがって、仮説 1 は部分的に支持され、仮説 2 は棄却された。石塚 (2013) においては、一般企業の従業員が組織内のソーシャル・キャピタルを高めることによって内発的動機づけを高めることを示しているが、NPO 法人格という形態では、クラブの運営を通じて、地域に貢献するとい公益的な規範意識が高まることから、クラブマネジャーとして業務に対する動機づけにつながり、構造的ソーシャル・キャピタルであるネットワークの構築は直接的に動機づけに影響しないことが示された。次に、内発的動機

づけはクラブ総合評価に有意に影響 ( $\beta=.232$ ) を及ぼしていた。したがって、仮説 3 は支持された。Deci (1975) によると、内発的動機づけは「活動すること自体がその活動の目的であるような行為の過程であり、活動自体に内在する報酬のために行う行為の過程と定義される。クラブ運営を通じて、地域スポーツの充実を図ろうとする動機づけが、クラブ運営の充実につながっていることを示している。そして、スポーツ・ソーシャル・キャピタルのうち、認知的ソーシャル・キャピタルの 2 因子はクラブ運営評価に有意に影響 ( $\beta=.273$ ) を及ぼしていた。したがって、仮説 4 は支持された。稲葉・山口 (2009) においては、クラブ代表者が蓄積している地域における信頼が、安定した自主運営体制をもたらしていることを示唆している。本研究においても、4-2. において NPO 法人格クラブの方がすべてのクラブ運営評価が高かったように、運営体制をはじめ、外部との関係構築や指導体制の充実、それに伴う多様な活動内容の展開に繋がっているといえる。もう一つのスポーツ・ソーシャル・キャピタルである構造的スポーツ・ソーシャル・キャピタルの 2 因子は、いずれもクラブ運営評価に有意な影響を及ぼしていなかった。したがって、仮説 5 は支持されなかった。特に、スポーツ・ネットワークがクラブ運営評価に影響を及ぼしていなかった要因として、稲葉ら (2013) が示すように、NPO 法人格クラブが地域スポーツ活動の調整役を担っており、スポーツ関係者とのネットワークがクラブ組織の中に含まれていることが考えられ、クラブの内部で様々なスポーツ関係者とのネットワークを活用することができる場合も多いことが推察される。

図 3 は、任意団体クラブにおいて仮説モデルを検証した結果である。まず、スポーツ・ソーシャル・キャピタル 4 変数のうち内発的動機づけに有意に影響を及ぼしていたのは、社会的信頼 ( $\beta=.272$ )、報酬性の規範 ( $\beta=.184$ )、スポーツ・ネットワーク ( $\beta=.171$ ) であった。したがって、仮説 1 は支持され、仮説 2 は部分的に支持された。任意団体クラブの方が財務面・人事面を含めてクラブ規模が小さく、特に、クラブマネジャーも無給で務めている場合も多い。稲葉ら (2013) においても、任意団体クラブにおいてはボランティアによる運営が進められていることが特徴として挙げられており、クラブマネジャーを中心に、各指導者や運営スタッフとの信頼関係や地域貢献への規範意識がクラブ運営の動機づけに繋がっていることがうかがえる。また、スポーツ関係者とのネットワークを構築することにより、新たな活動の展望や地域住民への貢献につながる事業を見出すことが、クラブ運営の動機づけに繋が

っていると推察される。次に、内発的動機づけはクラブ総合評価に有意に影響 ( $\beta = .278$ ) を及ぼしていた。したがって、仮説3は支持された。NPO法人格クラブと同様に、クラブ運営の使命感といった動機づけがクラブの活動の充実につながっている。そして、認知的ソーシャル・キャピタルの2因子はクラブ運営総合評価に有意に影響(社会的信頼:  $\beta = .191$ ,  $\beta = .278$ ) を及ぼしていた。したがって、仮説4は支持された。クラブの組織基盤から鑑みるに、任意団体クラブは比較的活動規模が小さいクラブが多いといえる。稲葉・山口(2009)においても、活動規模が小さいクラブが多く所在する農村部のクラブにおいては、クラブ代表者の信頼関係がクラブの活動を充実させるうえで不可欠であることを

示している。大半がボランティア指導者・運営スタッフでのクラブ運営においては、信頼や規範意識がクラブ運営評価に大きく影響することが示された。さらに、構造的ソーシャル・キャピタルの2因子のうち、スポーツ・ネットワークのみがクラブ総合評価に有意に影響 ( $\beta = .212$ ) を及ぼしていた。したがって、仮説5は部分的に支持された。NPO法人格クラブとは異なり、任意団体クラブにおいてはクラブに関わるスポーツ関係者の人数は少ないと考えられる。その中で、クラブマネージャーがスポーツ関係者とのネットワークを構築しており、クラブ運営に有効に活用している場合は評価が高まることが考えられる。

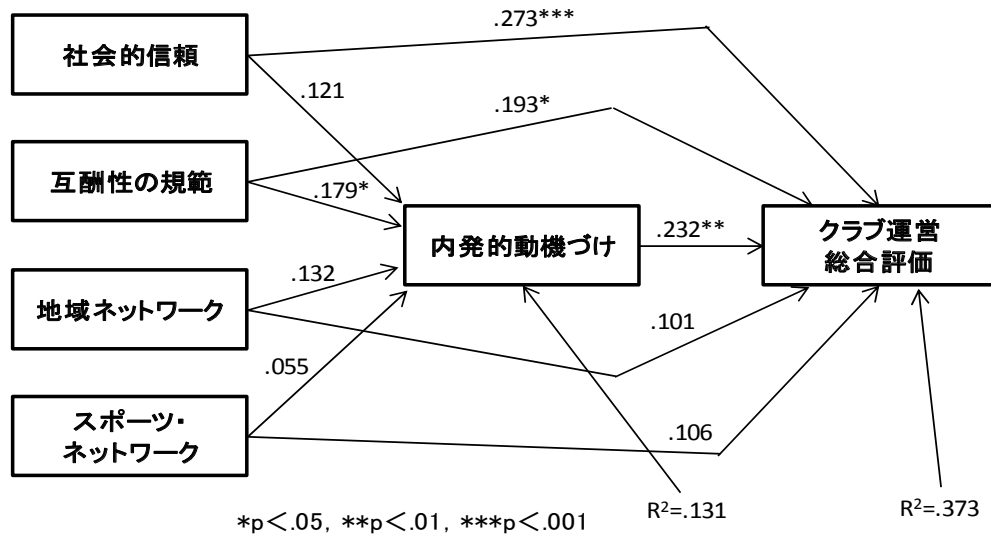


図2. クラブ運営評価に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタル因子に関する仮説モデルの検証 (NPO 法人クラブ)

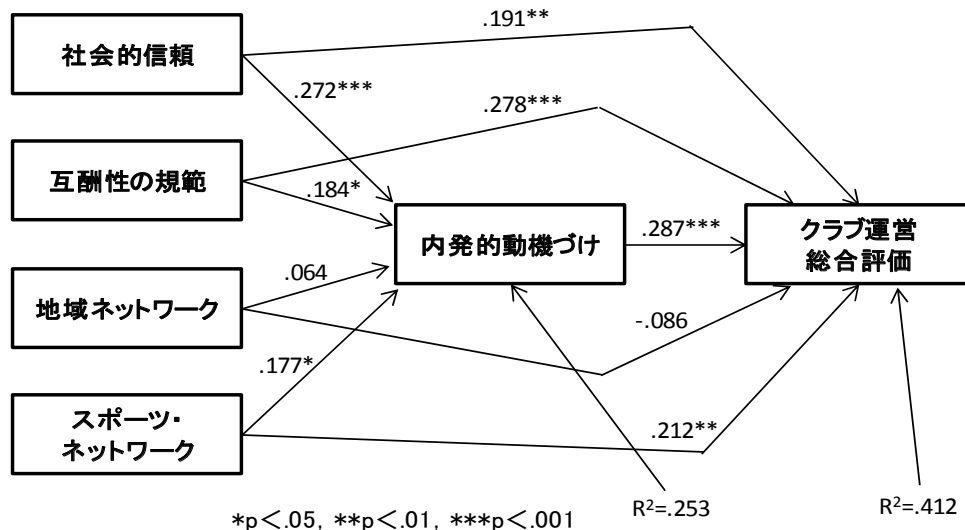


図3. クラブ運営評価に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタルに関する仮説モデルの検証 (任意団体クラブ)

## 5. まとめ

本研究の目的は、総合型クラブのクラブ運営評価に影響を及ぼすスポーツ・ソーシャル・キャピタル因子を明らかにすることであった。具体的には、クラブ運営の中核を担うクラブマネジャーを対象に、クラブ運営評価に影響を及ぼすソーシャル・キャピタルを、法人格の有無によって比較することで検証することである。その結果、以下の3点が明らかとなった。

1. 総合型クラブのクラブ運営評価について、「外部との関係構築」、「多様な活動内容」、「指導体制」、「運営体制」、「クラブハウスの活用」、「未成年の参加」という6因子、スポーツ・ソーシャル・キャピタルのうち、認知的側面では、「社会的信頼」、「互酬性の規範」という2因子、構造的側面では、「地域ネットワーク」、「スポーツ・ネットワーク」という2因子が抽出された。
2. NPO 法人格クラブにおいては、クラブマネジャーの地域貢献への規範意識がクラブ運営の動機づけを高め、地域との信頼関係の構築、地域貢献の規範意識、さらにはクラブ運営の動機づけが高まることにより、クラブ運営の評価が高まることが明らかになった。
3. 任意団体クラブにおいては、クラブマネジャーの地域との信頼関係、地域貢献の規範意識、スポーツ関係者とのネットワークがクラブ運営の動機づけを高め、これら4つの要因によって、クラブ運営の評価が高まることが明らかとなった。

以上の結果から、法人格の有無に関わらず、スポーツ・ソーシャル・キャピタルのうち、社会的信頼や互酬性の規範といった認知的な側面の要因がクラブの活動を活性化させるために重要であることが明らかとなった。

## 6. 論議

総合型クラブの育成事業が1995年に文部省（当時）によって開始されてから、早くも20年が経過しようとしている。総合型クラブを対象とした研究も数多くなされており、水上（2002）、行實・清水（2003）、菊池・権田（2005）、山口ら（2007）をはじめとして研究知見が蓄積されてきた。その中でも、クラブ運営の中核を担うクラブマネジャーの支援は非常に重要であり、本研究はクラブマネジャーが形成しているスポーツ・ソーシャル・キャピタル

に着目し、クラブ運営への影響について以下のような研究視点を投げかけている。

まず第1点は、クラブマネジャーの内発的動機づけを高める上で、スポーツ・ソーシャル・キャピタルの影響においてNPO 法人格クラブと任意団体クラブの間で違いがみられたことである。NPO 法人格クラブにおけるクラブマネジャーは、そのほとんどが有給でクラブ運営を担っており、自らの業務の公益性を認識することで内発的動機づけが高まっている。すなわち、行政や多分野のNPO や市民団体との連携を通じて、地域住民に対してクラブの公益性が認識できるような事業に関わる機会を創出していくことが重要と言える。一方、任意団体クラブのクラブマネジャーは、多くが無給、すなわちボランティアでクラブ運営に携わっている。稲葉ら（2013）において、任意団体クラブの活動を指導や運営といった側面で支えるボランティアや学校関係者との関係性の強さが特徴として挙げられており、地域住民との信頼関係や地域貢献への規範意識の高まり、スポーツ関係者との関係強化といった経験を経て、クラブ運営への内発的動機づけを高める姿が浮かび上がる。

第2に、クラブ運営評価を高める要因について、NPO 法人格クラブと任意団体クラブの間で違いがみられたことである。どちらのクラブ形態においても、クラブマネジャーの内発的動機づけ、地域との信頼関係、地域貢献の規範意識といったものがクラブ運営の充実につながることを示された。しかし、任意団体クラブにおいては、スポーツ関係者とのネットワーク構築がクラブ運営の充実につながることを示された。表4において、スポーツ・ネットワークの分散に着目すると、任意団体クラブにおける分散の数値が大きく、スポーツ関係者との関係構築状況に差が大きいことが示唆される。したがって、任意団体クラブを対象としたクラブ育成支援においては、クラブと各スポーツ関係者との協力関係を構築し、人的交流等を通じて活動の質の向上を目指すことが有効であることが示された。

今後の両形態のクラブ支援として、NPO 法人格クラブにおいては、行政からの委託・他の地域団体との連携によって、クラブが公益性の高いことを地域からより認知される事業への参画を促すなどの支援が必要になるといえる。一方、任意団体クラブにおいては、クラブ運営の動機づけやクラブ運営評価にスポーツ関係者とのネットワーク構築が影響していたことから、行政や各体育協会、あるいはクラブ間による連絡協議会といった組織が、クラブと地域スポーツ団体、あるいはクラブ間の連携を進め、運営に活かすことが重要な課題であるといえる。



## 参考文献

- Deci, E. L. (1975) *Intrinsic motivation*. New York : Plenum Press. 安藤延男・石田梅男訳 (1980) 内発的動機づけ: 実験社会心理学的アプローチ. 誠信書房: 東京.
- 藤田紀昭 (2012) 障害者の参加形態別にみた総合型地域スポーツクラブの特徴に関する研究. *障害者スポーツ科学* 10(1) : 21-34.
- 舟木泰世・野川春夫 (2012) 総合型地域スポーツクラブにおけるソーシャルキャピタルの培養: 東京都のクラブ創設・育成事業に着目して. *日本体育学会大会予稿集*, 63 : 97.
- Okayasu, I., Kawahara, Y., Nogawa, H. (2010) The relationship between community sport clubs and social capital in Japan : A comparative study between the comprehensive community sport clubs and the traditional community sports clubs. *International Review for the Sociology of Sport*, 45(2) : 163-186.
- 堀江常稔・大塚篤・井川康夫 (2007) 研究開発組織における知識提供と内発的モチベーション. *経営行動科学*, 20(1) : 1-12.
- 堀淵知哉・市田行信・平井寛・近藤克則 (2007) ソーシャル・キャピタルと地域コミュニティの歴史: 旧版地形図を利用した大規模アンケートの分析. *GIS—理論と応用*, 15(2) : 59-70.
- Harvey, J., Levesque, M., Donnelly, P. (2007) Sport volunteerism and social capital. *Sociology of Sport Journal*, 24(2) : 206-223.
- 稲葉慎太郎・山口泰雄 (2009) 総合型地域スポーツクラブの運営評価に影響を及ぼす要因に関する研究—クラブ・プロフィールとソーシャル・キャピタルに着目して—. *体育・スポーツ科学*, 18 : 1-10.
- 稲葉慎太郎・山口泰雄・伊藤克広 (2013) 総合型地域スポーツクラブの法人格の有無によるソーシャル・キャピタルの影響に関する研究. *SSF 笹川スポーツ政策研究*, 2(1) : 152-160.
- 石塚浩 (2013) 組織レベル社会関係資本: モチベーション効果と組織全体の理解. *情報研究*, 49 : 1-17.
- 菊池秀夫, 権田仁美 (2005) スポーツNPO法人の経営に関する研究. *中京大学体育研究所紀要*, 19 : 67-76.
- 水上博司 (2002) 総合型地域スポーツクラブの設立に向けて ~はじめの一步~. 黒須充ほか編著, *ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ*. 大修館書店: 東京, pp. 42.
- 文部科学省 (2013) 平成 25 年度総合型地域スポーツクラブ育成状況. 文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課.
- 森岡清志 (2011) ソーシャル・キャピタルの集積的効果. *放送大学研究年報*, 29 : 1-11.
- 長積仁, 榎本悟, 曾根幹子 (2009) 地域スポーツクラブがコミュニティにもたらす影響: プログラムへの参加とソーシャル・キャピタルとの関係性の検討. *生涯スポーツ学研究*, 6(2) : 1-11.
- 内藤拓也 (2003) スポーツNPO 法人の現状と展望. *体育の科学*, 53(9) : 693-696.
- 内藤正和 (2006) 総合型地域スポーツクラブのNPO法人化に関する研究. *愛知学院大学心身科学部紀要* 2 : 9-18.
- Perks, T. (2007) Does Sport Foster Social Capital? The Contribution of Sport to a Lifestyle of Community Participation. *Sociology of Sport Journal*, 24(4) : 378-401.
- Putnam, D. R. (1993) Making democracy work : Civic traditional in modern Italy. 河田潤一訳 (2001) 哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造. NTT 出版: 東京.
- 坂本治也 (2007) ソーシャル・キャピタルは民主主義を機能させるのか?—日本の地方政府と市民社会の計量分析—. *政策科学・国際関係論集*, 9 : 1-52.
- 山口泰雄 (2006) 地域を変えた総合型地域スポーツクラブ. 大修館書店: 東京.
- 山口泰雄・高見彰・土肥隆・伊藤克広・船田一彦 (2007) 総合型地域スポーツクラブの発展における促進・阻害要因とプロセスに関する実証的研究. 平成 17 年度~平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書).
- 吉澤裕世・横山典子・菅洋子・田辺解・西尾チヅル・久野譜也 (2013) 地域コミュニティの再構築がソーシャル・キャピタル及び身体活動量に及ぼす影響. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 21(1) : 201-209.
- 行實鉄平・清水紀宏 (2003) 総合型地域スポーツクラブのマネジメントに関する事例研究—NPO 法人化過程に着目して—. *体育・スポーツ経営学研究*, 18(1) : 25-36.

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。